

部 内 限

# 昭和49年度 農業技術協力計画の概要

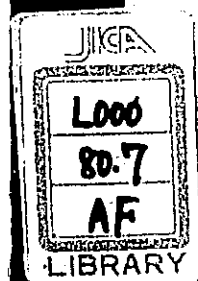
49 . 10 . 15

国 際 協 力 事 業 団

農 林 業 計 画 調 査 部

農 業 開 発 協 力 部

林 業 開 発 協 力 部



内 部 用

豊後県農業振興公社 信用組合 豊後県農業振興公社

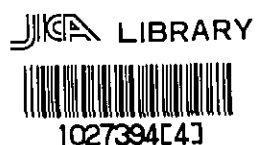
国際協力事業団	
受入 月日	'84. 5. 25
	4,000
登録No.	07708
	80.7
	AF

国際協力事業団

昭和49年度農業技術協力計画の概要（1号案件）

目 次

1. 事前調査	1	(2) タンザニア ; キリマンジャロ地域農業開発計画	5
ア. プロジェクト ファインディング調査	1	(3) ブラジル ; リベイラ河流域農業開発計画	6
(1) 東南アジア地域	1	(4) タイ ; どうもろこし開発計画	7
(2) 中近東地域	1		
イ. 予備調査	1	4. 投資前基礎調査	8
(1) インドネシア ; 南スラウェシ中部稲作開発計画	1	(1) インドネシア ; ワイラレムアブン地区かんがい計画	8
(2) インドネシア ; 養蚕開発計画	2	(2) ペルー ; 中部漁業基地建設計画	8
(3) 西アフリカ ; 農業開発計画	2		
(4) フィリピン・タイ ; どうもろこし開発計画	2	5. 技術協力プロジェクト	9
ウ. 基礎調査	3	ア. センター方式のプロジェクト	9
(1) 現地研修調査<I>	3	(1) インド ; 農業普及センター	9
(2) 現地研修調査<II>	3	(2) シリア ; 鶏病予防センター	9
(3) 計画基準作成調査	3	(3) スリ・ランカ ; 高等水産講習所	10
(4) 開発実態調査	3	イ. 村落開発方式のプロジェクト	10
		(1) インドネシア ; ランポン農業開発計画	10
2. 計画調査	4	(2) ラオス ; タゴン地区農業開発計画	11
(1) フィリピン ; カガマン渓谷農業開発計画	4	(3) インド ; ダンダカラニア地域農業開発計画	12
(2) マダガスカル ; 畜産振興計画	4	(4) スリ・ランカ ; デワフワ村落開発計画	12
(3) ペルー ; 水産加工センター	4	(5) ネパール ; ジマナカプール地域農業開発計画	13
		ウ. モデル開発方式プロジェクト	14
3. 実施設計調査	5	(1) インドネシア ; 西部ジャワ食糧増産計画	14
(1) イラン ; シスタン地域農業開発計画	5	(2) インドネシア ; タジム・パイロット計画	14





ノ 事 前 調 査

ア. プロジェクトファインディング

対象地域	回 名	予 算		49 年 度 の 調 査 予 定
		48年度 の 実績 千円	49年度 千円	
① 東南アジア地域	インドネシア		4,692	期 間 ; 49年11月から約1カ月 団 員 ; 5 名 目 的 ; IGGI技術協力要請案件中, 農業技術協力プロジェクトについてインドネシア政府, 関係機関より事情聴集を行うとともに現地踏査を実施する。
② 中近東地域	アフガニスタン イ ラ ク サウジアラビア 北 イ エ メ ン  功績・小40(2)等の		4,692	期 間 ; 未 定 団 員 ; 5 名 目 的 ; 中近東諸国に対する技術協力を推進するためサウジアラビアを中心とし, 事情聴取並びに現地踏査を行う。

イ. 予 備 調 査

国 名	調 査 名	予 算		調 査 の 概 要 及 び 49 年 度 の 調 査 予 定
		48年度 の 実績 千円	49年度 千円	
① インドネシア	南スラウェシ州中部 稲作開発計画		4,692	48年度の総合開発計画調査により地区の開発基本構想の策定と地区内の7つのサブプロジェクトの開発優先順位及び農業技術協力の可能性が検討されビラ河地区, ボラ河地区の開発優先順位と地区内の水資源総合マスタープラン及び稲作開発等の技術協力の必要性が勧告されている。  昭和49年度は社会開発部で行われる水資源総合開発調査に呼応しつつテンペラ湖周辺の稲作開発基礎調査を実施する。

国名	調査名	予 算		調査の概要及び49年度の調査予定
		48年度の 実績 千円	49年度 千円	
(2) インドネシア	養蚕開発計画		4,692	<p>調査期間；未定 団員；5名</p> <p>48年度の調査により協力の可能性が検討され、49年度には長期調査員の派遣についての打合せを行う予備調査団を派遣し、年度内に本協力の計画を策定する長期調査員(3名)をボゴールの林業試験場養蚕部局に派遣することとする。</p> <p>期 間；10月上旬より10日間(実施中) 団員；4名</p>
(3) 西アフリカ (アイジエリア ガナ リベリア)	炭業開発計画		4,692	<p>48年度のプロジェクトファインディング調査結果を基礎に協力の可能性を調査する。</p> <p>調査時期；未定 団員；5名</p>
(4) (マレーシア タイ 南スラウェシ)	とうもろこし開発 計画		4,631	<p>とうもろこし開発計画への協力の可能性を検討するため調査団を派遣する。なお、この予備調査結果をうけて、さらに実施設計調査団を派遣する予定となっている。(3. 実施設計調査(4)参照)</p> <p>調査時期；11月中 団員；5名</p>

7. 基礎調査

調査名	対象地域	予 算		49年度の調査予定
		48年度実績 千円	49年度 千円	
(1) 現地研修調査(I)	フィリピン タバトナム インドネシア		3,517 (48年度の繰越)	期 間 ; 49年11月から30日間 団 員 ; 5名 目 的 ; 優秀等の熱帯農業専門家を養成するため、派遣前の現地研修を行うに適した機関等の発掘と当該国政府機関との打合せを行ない、研修計画を策定する。
(2) 現地研修調査(II)	フィリピン タバトナム インドネシア		8,393	期 間 ; 50年2月から40日間 団 員 ; 8名 目 的 ; 上記調査により策定された研修計画に基づき、研修員数、期間、内容等について受入れ機関と協議を行い、実施計画書を策定する。
(3) 計画基準作成調査	マレーシア スリランカ インド パキスタン	374	9,204	期 間 ; 49年8月から28日間(実施済) 団 員 ; 8名 目 的 ; 本調査は、現地調査、政府関係機関よりの情報収集を行い開発途上国における農業水利開発計画の基準を作成せんとするものであり、昨年度のタイ、ラオス、インドネシア、フィリピンに引き続き実施する。
(4) 開発実態調査	西ドイツ、フランス等先進国と インドネシア等の の現地		2,144	期 間 ; 50年2月から40日間 団 員 ; 8名 目 的 ; 先進国が実施している地域総合開発プロジェクトの協力の実態及び問題点について現地で調査研究を行うと同時に、先進国の関係機関の協力の実態を調査する。

2. 計画調査 (Pre Feasibility Survey)

国名	プロジェクト名	予算		協力の内容	49年度の事業予定
		48年度延滞の美	49年度		
(1) フィリピン	カガマン溪谷農業開発計画	千円 —	千円 3,443	49年7月、総合開発計画調査団が派遣され、現在、地域の部門別の開発基本構想が検討されているが、この地域は特に農業開発のポテンシャルの高い地域であり、村落開発方式による開発が必要であるとされている。この構想に従い、本年度内に計画調査団を派遣する予定である。	① 計画調査団の派遣 時期； 団員； } 未定 目的；
(2) マダガスカル	畜産振興協力	3,749	12,805	48年8月事前調査団を派遣し、協力の可能性を検討した。マ政府の要請及び同調査の結果に基づき、本年度は北部地域の畜産振興を図るため計画調査団の派遣予定。① 水利施設、② 家畜衛生、③ 牧草改良、④ 品種改良の協力が今後の課題となる見込みである。	① 計画調査団の派遣 時期； 50年2月 団員； 5~6名 目的； 実施計画の概略の調査、協議
(3) ペルー	水産加工センター	4,158	63,453	49年1月に予備調査を実施し、本年度中に、長期調査員、計画調査団を派遣して、協力の計画を策定することになっているが、次のような協力内容となる見込みである。 ① 水産加工の技術、機械に関する訓練 ② 水産物の流通に関する訓練	① 長期調査団の派遣 (10月下旬) 時期； 10月下旬 専門家； 3名 ② 計画調査団の派遣 時期； 2月より2/日間 団員； 5名 目的； 協力計画の策定 ペルー政府との打合せ



3. 実施設計調査

国名	プロジェクト名	協力期間	専門技術者数	予算		協力の内容	49年度の事業予定
				48年度 の 実績 千円	49年度 千円		
(1) イラン	シスタン地域 農業開発計画		延 3人 現 (長期調査員) 1人	—	90,466	47年12月に予備調査団、48年8月 に予備調査の補充調査、49年3月に 長期調査員を派遣し、協力の基本構想 を策定した。本年度は実施設計調査団 を派遣し、パイロットファームの設計 を行う。  このパイロットファームにおいて次 の協力を行う予定である。 ① 畑作等を主体とした試験、研究 ② 畑作等に関する技術者の訓練	① 実施設計調査団の派遣 時期：1月より60日間 団員：10名 目的：パイロットファ ームの設計
(2) タンザニア	キリマンジャロ 地域農業開発計画  (- 研究 1960)		延 2人 現 2人	—	52,842	48年3月に予備調査団、48年11 月に実施調査団を派遣し、協力の基本 構想を策定した。これを受け、本年10 月に、実施設計調査団を派遣し、協力 計画を策定するとともにタンザニア政 府と打合せを行い合意議事録を締結す る予定である。  基本構想による協力計画案は次のと おりである。 ① リマムング研究所を中心とする試	① 実施設計調査団の派遣 時期：11月初旬より 21日間 団員：5名 目的：協力計画の策定 とタンザニア政府との 打合せ

国名	プロジェクト名	協力期間	専門家派遣数	予算		協力の内容	49年度の事業予定
				48年度迄の実績 千円	49年度 千円		
(3) ブラジル	リベイラ河流域 農業開発計画			—	68.307	<p>験研究協力</p> <p>② キリマンジャロ州の水資源開発調査協力</p> <p>③ キリマンジャロ州における農業調査協力</p> <p>46年12月に予備調査団、49年2月に計画調査団を派遣し、協力の基本構想を策定した。本年度は、これに従い実施設計のための調査団を派遣し、協力計画の策定と打合せ等を行うことにしている。次の協力を行う予定である。</p> <p>① 竣工された輸中での基盤整備、水管理技術</p> <p>② 新規輸中の計画立案、建設</p> <p>③ 農業開発センターでの栽培試験、展示、普及</p> <p>また、この後、年度内にR/D締結のための調査団派遣の予定。</p>	<p>① 実施設計調査団の派遣 時期；12月より60日間 団員；10名 目的；協力計画の策定とブラジル政府との打合せ</p> <p>② 計画打合せ 時期；2月より14日間 団員；3名 目的；R/Dの締結</p>

国名	プロジェクト名	協力期間	専門家派遣数	予算		協力の内容	49年度の事業予定
				48年度迄の実績	49年度		
(4) イ	とうもろこし開発計画 新米字の 園道			千円 —	千円 ✓ 24049	<p>かねてより協力の要請があるとうもろこし開発計画への協力の可能性を検討するため、予備調査団を派遣する。この結果を受けて協力の基本構想を策定するため実施設計調査を行う。</p> <p>この総合開発計画の内容は次のとおりである。</p> <p>① とうもろこし主産地における<u>研究所の強化</u></p> <p>② <u>農業協同組合機械化センターの設置</u></p> <p>③ 栽培技術の普及を目的とする普及組織の結成</p> <p>④ 輸送手段の改善</p>	<p>① 実施設計調査団の派遣</p> <p>時期 ; } 未定</p> <p>人員 ; }</p> <p>目的 ; 協力の基本構想の策定</p>

4. 投資前基礎調査

国名	調査名	調査期間	調査員数	調査費予算	調査の概要	49年度の事業予定
(1) インドネシア	ワイラレムアブン地区かんがい計画 (計画調査)	2カ月間 〔47.9.20 5 49.11.28〕	12名 〔団長 1名 計画調整 1名 測量 10名〕	千円 113,999	本計画は、スマトラ島ランポン州の中部地域118,000haのうち、わが国が48年度に策定した開発基本構想により技術的、経済的に開発の可能性が高いとされている南部域35,000haのクイックフィールド方式の開発計画で、短期間に事業効果を発揮させるため小灌漑30カ所を築造し、雨期、乾期で水田3,400ha、畑2,800haのかんがいを行うものである。この計画の技術的、経済的開発の可能性を検討するため、計画調査を実施中である。	実施中
(2) ペルー	中部漁業基地建設計画 (予備調査)	30日間 〔49.10.1 5 49.10.30〕	5名 〔団長 1名 漁港計画 1名 水産一般 1名 漁港建設 1名 業務調整 1名〕	13,091	本計画は、ペルー政府が、同国経済開発計画のうちで最も優先度が高いとしている漁業プロジェクトの一つであり、魚粉工場のための漁獲荷上げ及び処理施設、食用魚の加工及び冷凍施設の整備、その他附帯施設を有する漁業基地の建設計画である。本調査は、候補地区の踏査及び基礎資料の分析、採択図のチェックを行い、その結果に基づき漁業基地最適地区の選定を行うことを目的とする。	本調査結果を受け、さらに、50年1月に計画調査を実施する予定である。 実施中
5ヶ カカマヤの魚化	カカマヤの魚化調査					

5. 技術協力プロジェクト

ア. センター方式のプロジェクト

国名	プロジェクト名	協力期間	専門家派遣数	予算		協力の内容	49年度の主な事業予定		
				48年度迄の実績	49年度				
(1) インド	農業普及センター	① 第1次センター 7年間 (43年3月5日 5 50年3月4日)	延 41人 (アドバイザー 1 ヴィアラ 8 アラ 9 マンディア 8 コポリ 15)	千円 624482	千円 113,811	<p>農業生産の増大を図るため次の協力を行う</p> <p>① 農業技術の実用試験および普及</p> <p>② 農業技術者・農民の訓練</p> <p>③ 農業機械の実用試験および普及</p> <p>④ なお、コポリ及びヴィアラ農業普及センターにおいては、それぞれ次の協力を行なっている。</p> <p>イ. コポリ農業普及センター周辺部のコラバ地区開発計画(圃場整備、営農技術の普及、農業機械化の促進)</p> <p>ロ. ヴィアラ農業普及センター周辺部のウカイダム受益地域開発計画(調査計画に対する技術的助言指導)</p>	<p>① 巡回指導調査団の派遣</p> <p>時期 ; 9月下旬より30日間</p> <p>団員 ; 5名</p> <p>目的 ; 協定期間中の実施計画の検討、協力実績の評価、協定終了後のアフターケアの検討</p>		
	② 第2次センター (マンディアセンター コポリセンター) 7年間 (43年12月13日 5 50年12月2日)	現在 18人 (アドバイザー 1 ヴィアラ 5 アラ 4 マンディア 5 コポリ 3)	(2) シリア					鶏病予防センター	5年間 (47年11月16日 5 52年11月15日)

国名	プロジェクト名	協力期間	専門家派遣数	予算		協力の内容	49年度の主な事業予定
				48年度迄の実績 千円	49年度 千円		
(3) スリ・ランカ	高等水産講習所 センタープロジェクト Fish Project	4年間 〔47年4月16日〕 5 〔53年4月15日〕	延 2人 現在 2人	6,547	134,109	① 鶏病の診断, 予防, 調査 ② 技術者の訓練 ③ 普及 ④ ワクチン製造に対する助言  高等水産講習所において訓練等に関する次の協力を行う。 ① 高等学校卒業程度の訓練生に対する漁業技術訓練 ② 高等学校卒業程度の訓練生に対する漁船の機関技術の訓練 なお, この訓練は, 日本政府が無償協力した65メカのおトロール練習船を使用して実施される。	団員 ; 4名 目的 ; 技術的問題点の指導, 助言。  ① 巡回指導調査団の派遣 (時期等は未定) T25 3/19迄 = 1 13年12月 12/16/21/22 11/18/25 巡回指導調査団

イ. 村落開発方式のプロジェクト

国名	プロジェクト名	協力期間	専門家派遣数	予算		協力の内容	49年度の主な事業予定
				48年度迄の実績 千円	49年度 千円		
(1) インドネシア	ランポン農業開発計画	5年間 〔47年11月14日〕 5 〔52年11月13日〕	延 14人 現在 12人	264,846	305,644	南スマトラのランポン州の農業開発を目的として, 次の計画に対する協力を行なう。 ① 農業普及センターの設置(農業技術の改善, 普及員の訓練, 調査助言)	① 巡回指導調査団の派遣 時期 : 1月より35日間 団員 : 4名 目的 ; 技術的問題点の指導助言

国名	プロジェクト名	協力期間	専門家派遣数	予算		協力の内容	49年度の主な事業予定
				48年度実績 千円	49年度 千円		
(2) ラオス	タゴン地区農業開発計画	5年間 {45年4月24日 50年4月23日}	延 16人 現在 8人	344,746	96,322	<p>等)</p> <p>② 水田農業開発計画 中部ランポンの10郡(20,000 ha)を対象に普及農場(41カ所)を拠点とした改良稲作の普及、農民組織の育成活動</p> <p>③ 畑作農業振興計画 中部および南部ランポンの5郡(5,000 ha)を対象にした改良畑作の普及、農民組織の育成活動</p> <p>④ ズエンチマン平野タゴン地区農業開発のため、アジア開発銀行と協調し、次の協力を行なう。 わが国が調査設計を行ない、主にアジア銀行が融資しているタゴン農業開発計画地区内(800 ha)におけるパイロット農場(100 ha)の設置 イ. 土地基盤整備 ロ. 農業技術の改良 ハ. 地区内農民の啓蒙指導(入植訓練を含む)</p>	<p>② 建設機械専門家(短期)の派遣 時期; 10月 専門家; 2名</p> <p>③ かんがい計画専門家(長期)の派遣 時期; 11月 専門家; 3名</p> <p>④ 評価調査団の派遣(実施済) 時期; 7月上旬より15日間 団員; 4名 目的; 協力実績の評価と協定終了後の協力方針の検討</p>

国名	プロジェクト名	協力期間	専門家派遣数	予算		協力の内容	49年度の事業予定
				48年度の 実績 千円	49年度 千円		
(3) インド	ダンダカラニア地域 農業開発計画	5年間 45年8月19日 5 50年8月18日	延 10人 現在 8人	305,155	77,862	= 質 機材の供与  ダンダカラニア地域 パラルコート 地区(約30,000ha)の農業およ び村落開発計画に対し、次の協力を行 なう。 ① 同地区の農業村落開発計画に対す る総合的な助言指導 ② パラルコート総合農場(130ha) における実地試験と技術者の訓練 ③ パイロット地区における村落開発 について協力	① 短期専門家の派遣 時期 ; 専門家 ; 2名
(4) スリ・ランカ	デフフフ村落開発計画	5年間 45年10月19日 5 50年10月18日	延 12人 現在 5人	312,012	82,628	セイロン中央部乾燥地帯にあるデフ フフ村落上流部(水田283ha, 畑 31ha)の村落開発計画に対して次 の協力を行なう, ① 土地基盤整備 ② 営農技術の改善および普及 ③ 農民組織の育成および生活改善等	① 第1次巡回指導調査団 の派遣(実施済) 時期 ; 6月下旬より8 日間 団員 ; 4名 目的 ; 協定終了時まで の実施方針の検討 ② 第2次巡回指導調査団 の派遣



国名	プロジェクト名	協力期間	専門家派遣数	予 算		協力の内容	49年度の事業予定
				48年度迄の実績 円	49年度 円		
(5) ネパール	ジマナカポール地域農業開発計画	予備協力期間 3年間 [46年11月26日 5 49年11月25日] 本協力期間(予定) 5年間 [49年11月26日 5 54年11月25日]	延 9人 現在 7人	229,953	133,571	ジマナカポール地域農業開発計画に対する予備協力として、次の協力を行ない、続いて本協力に移行する。 ① ハルデース普及農業(40ha)における改良農業技術の導入、展示 ② ラプティ模範農場(8ha)における改良農業技術の導入、展示(一部普及) 現在、協定締結のための交渉を行っている。	時期 ; 両頁 ; ① 巡回指導調査団の派遣 時期 ; 11月上旬より35日間 団員 ; 4名 目的 ; かんがいを中心とする技術的問題の指導、助言 ② 専門家の派遣 時期 ; 10月上旬 専門家 ; 2名 ③ 短期専門家 時期 ; 11月 専門家 ; 4名

ウ. モデル開発方式のプロジェクト

国名	プロジェクト名	協力期間	専門家派遣数	予算		協力の内容	49年度の事業予定
				48年度実績 の 実績	49年度		
(1) インドネシア	西部ジャワ食糧増産計画 (アフターケアを実施中)	本協力 6年間 〔43年5月26日〕 ┆ 〔49年5月25日〕 アフターケア 2年間 〔49年5月26日〕 ┆ 〔51年5月25日〕	延 12人 現在 2人	千円 356,111	千円 50,326	西部ジャワの食糧増産に資するため、次の協力を行なった。 ① 地域農民の所得向上を図るチヘア、タニマムール計画 (1,086 ha) ② 農業の近代化を図る普及農場設置計画 ③ 技術者の訓練 (農業機械化、種子生産検査) 現在、上記業務のアフターケアを実施中である。	① 評価調査団の派遣 時期 ; 10月下旬より 21日間 団員 ; 4名 目的 ; 協力実績の評価 ② 専門家の派遣予定 時期 ; 未定 専門家 ; 2名
(2) インドネシア	タジム地区パイロット計画	5年間 〔46年2月16日〕 ┆ 〔51年2月15日〕	延 6人 現在 2人	165,506	68,477	アジア開発銀行が融資している中部ジャワ・タジムかんがい計画地域 (3,600 ha) の中に 220 ha のパイロット地区 (水田 192 ha, 畑 28 ha, 計 220 ha) を設け、次の協力を行なう。 ① 土地基盤整備 ② 近代的農業技術と水管理の普及指導等	

国名	プロジェクト名	協力期間	専門家派遣数	予 算		協力の内容	49年度の事業予定
				48年度迄 の実績	49年度		
(3) フィリピン	稲作パイロット農場 設置計画	本協力 5年間 〔44年6月16日〕 く 〔49年6月15日〕 アフターケア 2年間 〔49年6月16日〕 く 〔51年6月15日〕	延 16人 〔ミンドロ 8人〕 〔レイテ 8人〕 現在 4人 〔ミンドロ 3人〕 〔レイテ 1人〕	千円 363,698	千円 52,234	① ミンドロ島ナウハン地区(1,200 ha)およびレイテ島ナンミゲール アランアラン地区(1,100ha) を対象にかんがい排水施設の建設, 近代的営農技術の導入,乾燥貯蔵米 のためのライスセンター建設を含む 稲作モデル団地の建設計画の調査設 計 ② 両地区に設置されたパイロット農 場(100ha)において,次の協 力を行なった。 イ. 土地基盤整備 ロ. 稲作技術の改善および普及 ハ. 技術者等の訓練 現在,上記業務のアフターケアを 実施中である。	① 評価調査団の派遣(実 施済) 時期 ; 7月下旬より20 日間 団員 ; 4名 目的 ; 協力実績の評価
(4) マレーシア	稲作機械化訓練計画	5年間 〔45年12月29日〕 く 〔50年12月28日〕	延 3人 現在 1人	157,139	14,744	ムタ河かんがい計画地域の永稲2期 作化促進に資するため,ブンボンリマ の農学校においての協力を行なう。 ② 稲作機械化に関する農業普及員の 研修等	

国名	プロジェクト名	協力期間	専門家派遣数	予算		協力の内容	49年度の事業予定
				48年度実績 千円	49年度 千円		
(5) カンボディア	とうもろこし開発計画	6年間 [43年11月2日 5 49年11月1日]	延 11人 現在 1人  協定を29年 迄延長して 交換交渉 署名した。	83,082	6,583	② 稲作機械化に関する中堅農民の訓練  日カ合併の熱帯作物栽培公社のとうもろこし開発計画と協調し、試験農場を設置し、次の協力を行なう。 ① とうもろこしに関する試験研究および技術者の養成 ② とうもろこし栽培技術の改良および普及 ③ とうもろこしの流通改善	49年11月1日で協定期限切れにつき、その延長方について検討中
(6) タイ	養蚕開発計画	6年間 [44年3月3日 5 50年3月6日]	延 25人 現在 7人  5/19養蚕協会の39年7迄	430,439	92,333	東北タイの養蚕開発のための次の協力を行なう。 ① コーラート養蚕研究訓練センター設置 (近代的養蚕技術の確立、技術者の訓練) ② 4支場の設置 (改良蚕種、桑苗の製造配布) ③ 特定集落に対する近代的養蚕技術の普及 ④ 製糸業の開発に関する技術的指導	① 評価調査団の派遣 時期 ; 11月より20日間 団員 ; 3名 目的 ; 協力実績の評価と協定終了後の協力方針の検討

国名	プロジェクト名	協力期間	専門家派遣数	予 算		協力の内容	49年度の事業予定
				48年度実績 千円	49年度 千円		
①) バングラデシュ	農業機械化訓練計画	2年間 (48年4月1日 5 50年3月31日)	延 3人 現在 3人  3名 農業機械化訓練所 ↓ 協力の実施 5名 57万5千円 (50年4月以降) (農業普及訓練所) (農業普及訓練所) 57万5千円 (50年4月以降)	千円 57,505	千円 71,423	<p>バングラデシュの米の増産と農民の生活水準の向上を図るため、次の協力を行なう。</p> <p>① 農業機械化訓練所における農業機械化の訓練</p> <p>② 農業普及訓練所(7カ所)における訓練</p>	<p>① 巡回指導調査団の派遣時期；10月上旬より20日間</p> <p>団員；5名</p> <p>目的；50年4月以降の協力方針の検討</p>

エ. 教育・研究方式のプロジェクト

国名	プロジェクト名	協力期間	専門家派遣数	予 算		協力の内容	49年度の事業予定
				48年度実績 の 実 績 千円	49年度 千円		
①) ヴイエトナム	カントー大学農学部	6年間 (45年3月7日 5 51年3月6日)	延 2人 現在 2人  2人 6万5千円 外 1人 10万5千円 農学 1人 10万5千円 畜産 1人 10万5千円 11人、世に指導調査団(1次) 5名、世に指導調査団(2次)	千円 242,600	千円 61,974	<p>メコンデルタの中心、カントー市にあるカントー大学農学部において次の協力を行なう。</p> <p>① 農学分野における研究と教育</p> <p>② 畜産学の分野における研究と教育</p>	<p>① 巡回指導調査団(1次)の派遣時期；9月上旬より21日間</p> <p>団員；1名</p> <p>目的；技術的問題点の指導、助言</p> <p>② 巡回指導調査団(2次)の派遣</p>

国名	プロジェクト名	協力期間	専門家派遣数	予算		協力の内容	49年度の事業予定
				48年度実績 の実績	49年度		
(2) インドネシア	農業研究協力計画	5年間 〔45年10月23日 5 50年10月22日〕	延 15人 現在 4人  ネンヤの4人 更に追加の2人を派遣	200,065 円	66,804 円	ボゴール中央農業研究所において作物保護に関する次の共同研究に協力する。 ① 主要作物主要病害虫の生態と防除に関する研究 ② 主要作物主要病害虫およびウィルス病の媒介昆虫の発生予測に関する研究 ③ 食用作物の生理障害および主要病害虫に関する植物生理学的研究	時期 ; 11月より15日間 団員 ; 4名 目的 ; 技術的問題点の指導, 助言  ① 巡回指導調査団の派遣 時期 ; 11月より35日間 団員 ; 4名 目的 ; 実施状況の把握と協定終了後の協力方針の検討
(3) 韓国	農業研究協力計画	5年間 〔49年6月7日 5 54年6月6日〕	延 7人 現在 7人  ・ 6月15日迄17人のグループ 16名52.2~3人group 2~3, 14~9月10日迄の交渉	—	69,947 円	韓国の食糧増産および農民所得の向上を図るため, 水稻, 普通作物及び野菜の研究に関し次の協力を行う。 ① 作物安全多収性品種に関する研究 ② 水稻低位生産地の土壌肥料に関する	② 計画打合せチーム(1次)の派遣(実施済) 時期 ; 7月より21日間 団員 ; 7名 目的 ; 協定締結にあたり

・ 1954年 10月 22日 (水)  
協定の交渉に4名参加予定

国名	プロジェクト名	協力期間	専門家派遣数	予算		協力の内容	49年度の事業予定
				48年度迄の実績	49年度		
(4) インド	農業研究協力計画 (協定交渉中)	5年間 [47年12月 5 54年12月]	成立済み	48.227	99.761	<p>る研究</p> <p>③ 作物の栄養、水分生理生態に関する研究</p> <p>④ 生産基盤造成のための土壌・肥料の総合研究</p> <p>⑤ 除草剤に関する研究</p> <p>⑥ 野菜の生産増大及び品質向上に関する研究</p> <p>⑦ 作物保護に関する基礎および応用研究</p> <p>米の安定的増産および果樹園芸生産の振興に資するため次の協力を行う予定である。</p> <p>① 稲作主要病害虫の発生子探法の確立に関する研究(イネシントマバエ、メイ虫、ヨコバイとウイルス病、稲日葉枯病)</p> <p>② 果樹園芸に関する研究(落葉果樹、かんきつ類、野菜の種子(一代雑種))</p>	<p>り、今後の協力方針等についての打合せ</p> <p>② 計画打合せチーム(2次)の派遣 時期 ; 3月より10日間 団員 ; 3名 目的 ; 50年度の実施細部計画の打合せ</p> <p>① 巡回指導調査団の派遣 時期 ; 3月より30日間 団員 ; 4名 目的 ; 協定締結にあたり今後の協力方針等についての打合せ</p>

オ 一次産品開発方式プロジェクト

国名	プロジェクト名	協力期間	専門家派遣数	予算		協力の内容	49年度の事業予定
				48年度迄の実績	49年度		
(1) タイ	大豆開発協力 58年6月～ 59年6月 59年6月～ 60年6月	5年間	延 8人 現在 1人	円 140,872	円 44,620	タイ北部のチェンマイのメジョ農試を中心として次の協力を行う。 ① 大豆の増産、品質改善に関する試験、研究及び展示普及 ② 流通機構の整備、改善	① 巡回指導調査団の派遣 時期； 11月より15日間 団員； 5名 目的； 技術的問題点の指導、助言
(2) タイ	オイルシードラボラトリー協力	5年間 9年完了	延 2人 現在 1人	円 73,812	円 29,935	油糧種子の開発輸入に資するため次の協力を行う。 ① 油糧種子の分析、品質検査等の強化	① 巡回指導調査団の派遣 時期； 3月より15日間 団員； 5名 目的； 技術的問題点の指導、助言
(3) タイ	エビ養殖開発計画	3年間 48年3月26日 5 51年3月25日	延 9人 現在 4人	円 59,062	円 107,744	タイ国のエビ養殖業の振興を図るため、次の協力を行う。 ① 在来養殖方法の改良を目的としたパイロットファームの設立 ② パイロットファームで使用する種苗の生産に関する応用研究 ③ タイ国エビ養殖開発計画に関する技術的指導助言	① 巡回指導調査団の派遣 (実施中) 時期； 10月上旬より12-25日間 団員； 6名 目的； エビの種苗生産に重点をおいた技術的問題点の指導、助言

(注) モデル開発方式のカンボディア；とうもろこし開発計画、村落開発方式のインドネシア；ランポン農業開発計画は、この一次産品開発方式をも取り入れて実施している。



